

ISSN 2436 0783

千葉県生物多様性センター 年報 18

令和7年度（2025年4月～2026年3月）



千葉県生物多様性センター
Chiba Biodiversity Center

表紙の写真：生命のにぎわい調査団令和7年度写真コンテストの最優秀作品

「はじめてまして」

撮影：和田 信裕（四街道市）

【撮影者のコメント】 巣立ったばかりのツバメの幼鳥のところに、こちらも巣立ったばかりのハクセキレイの幼鳥が飛んできて、おそらく初顔合わせだっただろうという場面。たがいに興味津々の様子でした。

裏表紙の写真：生命のにぎわい調査団令和7年度写真コンテストの優秀作品

「待ちこがれて10年！」

撮影：千葉 公（千葉市）

【撮影者のコメント】 公園でオオセイボウを見たのは10年前、それから虜になり我が家のバタフライガーデンで待つこと10年！ 待望のメタリックブルーに輝く宝石蜂、オオセイボウが来てくれました。

奥付ページの写真：生命のにぎわい調査団令和7年度写真コンテストの生物多様性センター賞及び大島健夫賞受賞作品

生物多様性センター賞

「お邪魔しま〜す」

撮影：矢野 卓史（千葉市）

大島健夫賞

「葉上のバレリーナ」

撮影：牛村 展子（鴨川市）

はじめに

県が保全活動を実施している 3 種の動植物のうち、ミヤコタナゴについて「千葉県ミヤコタナゴ再導入・補強計画」を策定しました。ミヤコタナゴは、以前は関東平野に広く分布していましたが、近年では栃木県と千葉県の一部にしか生息していません。千葉県のミヤコタナゴは、まだ絶滅寸前という状況ではありませんが、生息数が以前より減少しているのは確かです。将来的に再導入等が検討された場合、本計画を策定していることで科学的な手順により再導入等を検討・実施することができます。

令和 5 年度から令和 7 年度に行っていた「千葉県レッドデータブック - 動物編 -」は現在、編集作業を進めており、令和 8 年度には発行される予定です。令和 8 年度からは「千葉県の外来生物」ブックを令和 10 年までに改訂する予定です。

特定外来生物については、ナガエツルノゲイトウ等の外来水生植物をスマートフォンアプリのバイオームを利用して 7 月 1 日から 11 月 14 日にかけて県民参加型の分布調査を行いました。幸い、多くの方に参加いただき、218 件の情報を投稿いただきました。この情報を活用して関係部局や市町村等と連携しながら、ナガエツルノゲイトウの防除を進めていきたいと考えています。

令和 7 年度はヒアリが 6 月 5 日に柏市で、アカカミアリが 6 月 16 日に千葉港で発見されました。幸い、定着までには至っていませんが、今後も注意が必要です。

生物多様性を保全するためには、多くの問題が山積していますが、当センターでは、少しでも解決できるように活動してまいります。また、問題を解決できるよう皆様のお力添えを頂ければと考えていますので、よろしくお願いします。

令和 8 年 6 月

生物多様性センターの様々な活動



アフリカツメガエル捕獲

千葉市 5/15



カミツキガメ捕獲現地技術指導

佐倉市 6/4



いんざい環境フェスタ

印西市 6/7



御宿町自然観察会

御宿町 6/20



ナルトサワギク駆除

茂原市 6/26



エコメッセ 2025in ちば

千葉市 10/19



市町村研修会
千葉県立中央博物館 10/29



第1回生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会
酒々井町 11/5



第2回生命のにぎわい調査団現地研修会
船橋市 12/6



房総のヒメコマツ観察会
君津市 1/18



企業と生物多様性セミナー
千葉県立中央博物館 2/19



生命のにぎわい調査フォーラム
千葉県立中央博物館 3/7

千葉県生物多様性センター 年報 18 令和7年度

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	i
生物多様性センターの様々な活動（写真）	ii
もくじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	iv
I 生物多様性センターの概要	
組織・分掌等・・・・・・・・・・・・・・・・.....	2
令和7年度 活動カレンダー	4
II 令和7年度 主要事業のまとめ	
絶滅危惧種の保護に向けて・・・・・・・・.....	6
絶滅の危険性を評価・・・・・・・・.....	9
外来生物の脅威から生態系を守る・・・・・・・・	11
生物多様性情報の収集・管理・提供・・・・・・・・	15
県民参加型の生物モニタリング調査・・・・・・・・	16
イベントによる情報発信・・・・・・・・.....	19
ウェブサイトによる情報発信・・・・・・・・.....	20
刊行物の発行・・・・・・・・.....	21
生物多様性サテライトの設置・・・・・・・・.....	22
大学との連携・・・・・・・・.....	23
企業との連携・・・・・・・・.....	24
さまざまな連携活動等・・・・・・・・.....	25
開発事業の指導・・・・・・・・.....	26
III 令和7年度 他機関への支援活動・研究業績等のまとめ	
他機関への支援活動・研究業績等・・・・・・・・	28

I

生物多様性センターの概要

組織・分掌等

1 設置の目的

千葉県生物多様性センターは、平成 20 年 3 月 26 日に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図ることを目的に、平成 20 年 4 月 1 日に設置されました。

2 設置場所

生物多様性センターは、千葉県立中央博物館の中に設置されており、中央博物館と連携をしながら業務を行っています。

住所：〒260-8682

千葉市中央区青葉町 955-2（千葉県立中央博物館内）

電話：043-265-3601

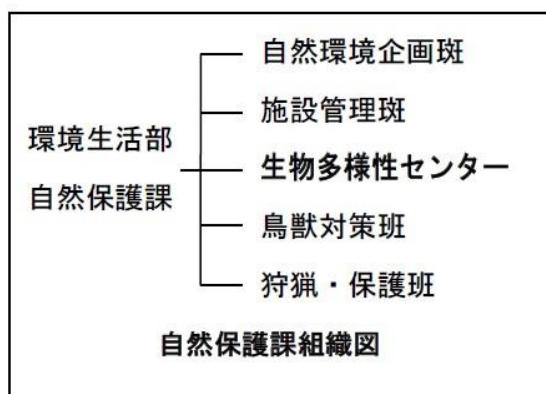
FAX：043-265-3615

e-mail：bdc@mz.pref.chiba.lg.jp

3 組織

生物多様性センターは、右図のとおり千葉県環境生活部自然保護課に属し、下記の分掌にあたっています。

令和 8 年 3 月現在の生物多様性センターの職員は 6 名、会計年度任用職員 3 名です。



4 主な分掌

生物多様性センターの令和 7 年度の主な分掌は下記のとおりです。

- ・生物多様性ちば県戦略の推進に関すること。
- ・生物多様性に係る基礎情報の充実・提供に関すること。
- ・生物多様性に係る地域等の取組支援に関すること。
- ・生物多様性に係る環境学習の推進に関すること。
- ・希少野生動植物の保護に関すること。
- ・特定外来生物（鳥獣関係を除く）の対策に関すること。
- ・生物多様性についての情報収集、管理、提供に関すること（シンクタンク機能）。
- ・生物多様性についての教育普及に関すること。
- ・生物多様性の保全・再生・利用のための現場指導に関すること。

5 機能

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」を推進するため、下記の機能を整備していきます。

○生物多様性に関する情報の収集・管理・提供・公開

- ・生物多様性に関する各種情報を収集し、提供します。
- ・千葉県に保有する生物多様性に関する既存情報を整備し、地理情報システム上で一括管理します。
- ・今後新たに得られた情報についても効率的に収集するシステムを構築し、順次整備していきます。
- ・地理情報システム上でデータベース化された情報は、生物多様性の効果的な保全に活かされます。
- ・これらの情報を様々な形式で一般の方から研究者まで広く提供します。

○生物多様性に関する調査研究

生物多様性に関する調査研究を推進し、かつ、モニタリング体制を整備します。そのため、野生動植物の生息・生育状況と経年変化を把握し、地球温暖化等の気候変動や人間活動が生物多様性に与える影響を探り、対策を研究します。

○シンクタンク機能

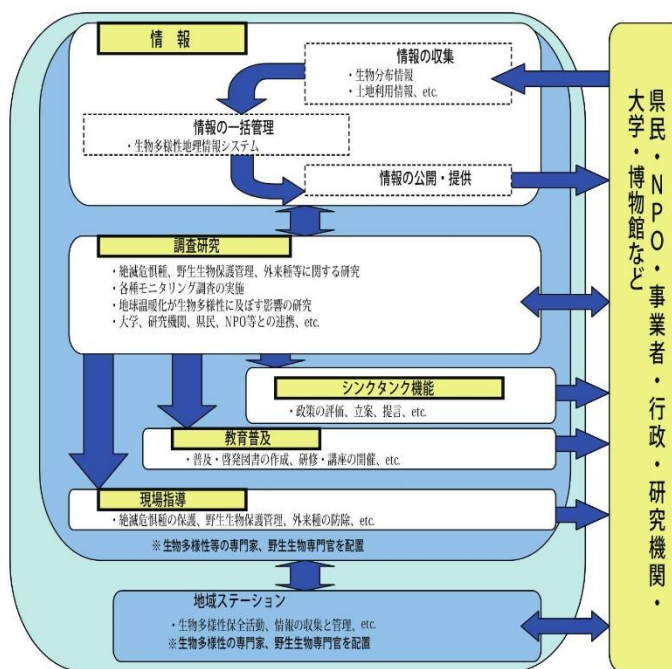
科学的な根拠に基づき、施策の評価、立案、提言を行います。

○生物多様性に関する教育普及

「生物多様性」及び「生物多様性ちば県戦略」の普及・啓発を図るため、各種図書の作成をはじめ、ニュースレターの発行、研修会・講座の開催等を行います。

○生物多様性に関する現場指導

野生動植物の保護管理、生態系の保全・再生、生物多様性を一体的にとらえた地球温暖化対策の推進等、現場に即した指導・助言を行います。



生物多様性センター機能概念図

令和 7 年度 活動カレンダー(普及啓発・イベント等)

●令和 7 (2025) 年度

- ・ 令和 6 年度 生命のにぎわい調査団 生物多様性写真展が終了 (5/6 まで)
- ・ (巡回展) 第 10 回いちばら環境フェスタにパネル出展 (6/2-6/7)
- ・ (巡回展) かまがや環境パネル展 2024 にパネル出展 (6/3-6/10)
- ・ (巡回展) 令和 7 年度いんざい環境フェスタに出展 (6/7)
- ・ (巡回展) 第 28 回ふなばし環境フェアに出展 (6/14)
- ・ (巡回展) ちばみんフェス 2025 in 香取に出展 (6/15)
- ・ (巡回展) 令和 7 年度環境パネル展<船橋市中央図書館>にパネル出展 (6/24-6/29)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.86 を発行 (6/30)
- ・ スマートフォンアプリ「バイオーム」を利用した県民参加型分布調査「みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ」開始 (7/1~11/14)
- ・ 「スマートフォンアプリを使用した県民参加型のナガエツルノゲイトウ等外来水生植物分布調査等に係る説明会」開催 (7/24)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.87 を発行 (9/30)
- ・ (巡回展) 第 17 回かまがや環境フェアにパネル出展 (10/4)
- ・ (巡回展) エコメッセ 2025 in ちばに出展 (10/19)
- ・ 生物多様性に関する市町村職員研修会を千葉県立中央博物館で開催 (10/29)
- ・ (巡回展) 自然誌フェスターみんなで楽しむ千葉の自然と歴史ーに出展 (11/3)
- ・ 一般財団法人 人材開発センター富士研修所での第 28 回 NORNAC 調査研究・活動事例発表会に参加・発表 (11/6-11/7)
- ・ 令和 7 年度 生命のにぎわい調査団 現地研修会を三番瀬干潟で開催 (12/6)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.88 を発行 (1/15)
- ・ 第 28 回企業と生物多様性セミナーを千葉県立中央博物館で開催 (2/19)
- ・ 生命のにぎわい調査フォーラムを千葉県立中央博物館で開催 (3/7)
- ・ ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」No.89 を発行 (3/31)
- ・ 令和 7 年度 生命のにぎわい調査団 生物多様性写真展(ミニトピックス展)を千葉県立中央博物館で開催 (令和 8 年 3/10-5/6)

II

令和 7 年度 主要事業のまとめ

絶滅危惧種の保護に向けて

絶滅危惧種対策事業

1 絶滅危惧種対策事業

絶滅危惧種といっても、原因や危急の度合いは様々です。その中でも特に生息・生育状況が悪化し、積極的に保護しなければ絶滅する可能性が極めて高い種として、シャープゲンゴロウモドキとヒメコマツ（ゴヨウマツ）が挙げられます。

千葉県ではこの2種について、地元自治体、関係NPO、学識経験者、水族館等で構成される保全協議会で検討を行い、独自に「千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画」および「千葉県ヒメコマツ回復計画」を平成22年度に策定しています。また、シャープゲンゴロウモドキは平成26年度と令和5年度に、ヒメコマツは平成26年度に、それまでの成果を踏まえた回復計画の改訂を行い、保護回復に向けた取組を続けています。

〇令和7年度の取組

【シャープゲンゴロウモドキ】

シャープゲンゴロウモドキはゲンゴロウ科ゲンゴロウ亜科ゲンゴロウモドキ属に分類される水生昆虫です。全国的に絶滅の危険性が極めて高く、環境省のレッドリストで絶滅危惧種ⅠA類に選定されています。また、平成23年4月1日には、環境省により「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲や譲渡等が禁止されました。現在、日本で生息が確認されているシャープゲンゴロウモドキのうち、関東型と呼ばれる亜種は、かつては関東地方に広く分布していましたが、今では千葉県のごく一部の地域で生息するのみとなっています。そのため、千葉県は県レッドリストで本種を最重要保護生物（ランクA）に選定するとともに、保全事業に継続して取り組んでいます。

令和7年度は、現在の生息地において生息状況をモニタリングするとともに生息環境の維持管理（草刈や水域の維持）を実施しました。また、生息環境の創出を行うべく生息地周辺地域での環境整備など、生息地域と個体数の拡充を進めています。

さまざまな保全の取り組みを進めているものの、生息地での確認個体数は年により大き

く異なり、未だ個体群の維持が不安定な状況にあります。そのため、生息環境の整備と並行して、系統保存（由来が混ざらないように、個別に行う飼育）を、鴨川シーワールドの協力を得て継続して実施しています。平成31年4月には、生息地域と範囲の拡大を目的として、過去に本種が生息していたことが把握されている場所の生息環境を整備し、鴨川シーワールド及び関係NPOによって維持されてきた飼育個体の野外への再導入を実施しました。この場所を毎年モニタリングしていますが、令和7年度まで継続して卵や新生幼虫が確認されており、生活史が自律的に回っていると考えられています。

そのほか、関係NPOによる生息地のパトロール、地元小学校の観察会、各種会合における回復計画の周知、生息地水源確保のための基礎調査などの活動を継続して行いました。



鴨川シーワールドで展示中の
シャープゲンゴロウモドキ

【ヒメコマツ（ゴヨウマツ）】

ヒメコマツは、東北南部以南の太平洋側（本州・四国・九州）の山地に分布します。最終氷期には広範に分布していたものが、その後の温暖化に伴い局所的に残ったと考えられており、その中でも特に房総丘陵の個体群は、他から孤立した特異な存在であるだけでなく、房総半島の植物相や植生の成立を考える上で重要です。しかし近年、その個体数が急速に減少してしまったため、平成22年3月に千葉県ヒメコマツ回復計画を策定、平成27年3月

絶滅危惧種対策事業

に改訂し、それに基づいて回復事業に取り組んでいます。

令和7年度は、継続的に実施しているヒメコマツ生育状況や繁殖状況のモニタリングを引き続き実施しました。生育状況調査では24個体について調査を行い、枯死している個体はありませんでした。今年度は新たに進階（成長して樹高が1.3メートルを超えること）した個体はありませんでしたが、平成27年以降に進階した個体のうち、今年度調査を行ったものについては、いずれも健全に生育していました。また、昨年度に見られた昆虫による食害については、一つも見られませんでした。この食害によるヒメコマツ個体群への影響は限定的なものであると思われますが、将来的にどのような形で影響するかは不明なため、継続して観察する必要があります。目視で着果状況を調べる繁殖状況調査を17個体で実施したところ、1個体あたりの平均球果が24個という結果でした。この結果は令和6年度と比較すると増えておりますが、「凶作」となります。

「補強試験」として、平成23年度にかつての自生地である清和県民の森へヒメコマツ苗の植栽を実施しており、それ以降継続して実施している移植苗周辺の草刈りと生育確認を今年度も行いました。植栽した28個体は順調に生育していました。シカ食害防止のために設置してあった金網は、苗の生長により食害の心配がほぼなくなったため平成29年度に撤去しましたが、今年度もシカの食害は認められませんでした。

ヒメコマツ系統保存事業の一環として、長期にわたって責任を持ってヒメコマツ苗を植栽管理し、定期的にモニタリングデータを提供できる個人及び団体（企業、学校、NPO、市町村を含む）を「ヒメコマツ系統保存サポーター」として募集する事業を平成27年度から開始しました。平成28年2月に1次募集、平成28年6月から2次募集を行い、平成29年2月までに123の個人及び団体にヒメコマツ苗を配付しました。平成30年3月からは、新たに個人・団体を問わず、県内在住の方を

対象に3次募集を行い、これまでに22の個人及び団体に苗を配付しました。

令和8年1月18日（日）には、君津市豊英で観察会を開催しました。千葉県立中央博物館の尾崎煙雄氏、西内李佳氏に講師をお願いし、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林の三次充和氏に清澄作業所および森林博物資料館を案内していただきました。参加者は14名（ヒメコマツ系統保存サポーター5名、講師2名、千年の森をつくる会4名、自然保護課職員3名）でした。観察会では、豊英に自生しているヒメコマツの生育状況や植栽個体などをご覧いただきました。



ヒメコマツ観察会の様子

※シャープゲンゴロウモドキ及びヒメコマツ回復計画についての詳細は、生物多様性センターのウェブサイトをご覧ください。

https://www.bdcchiba.jp/endangered/endang_index.html

絶滅危惧種の保護に向けて

絶滅危惧種対策事業

2 ミヤコタナゴ保護増殖事業

ミヤコタナゴは、湧水を水源とする細流やため池などに生息するコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。かつては関東地方に広く分布していましたが、都市化に伴う生息環境の悪化や本種の生息を脅かす外来種の影響により、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ分布しています。

このような状況から、本種は「種の保存法」に基づく「国内希少野生動植物種」に指定されているほか、「文化財保護法」に基づき「天然記念物」に指定され、保護されています。

生物多様性センターでは、本種の保護増殖を図ることを目的に、生息状況の把握や生息環境の維持ならびに個体群の系統保存等を行っています。



ミヤコタナゴのオス



ミヤコタナゴのメス

勝浦市の各地点においてミヤコタナゴの生息状況調査を行いました。各調査地点ではアメリカザリガニも捕獲されており、ミヤコタナゴやミヤコタナゴの繁殖に必要な二枚貝の捕食が危惧されています。こういった保全対策を立てていけば良いのか検討するためには、定期的かつ継続的なモニタリングが重要となります。

生息地では、ミヤコタナゴと競合の恐れがあるタイリクバラタナゴや国内外来魚であるヌマムツ等外来魚類の駆除を行いました。また、茂原市の生息地では、二枚貝類を捕食するアライグマの捕獲も実施しました。今後も継続的に駆除活動を実施し、ミヤコタナゴの生息状況の改善を図っていきます。

再導入・補強準備事業では、生息域外保全の個体群を野外へ再導入・補強する際の実施方法を定めた「千葉県ミヤコタナゴ再導入・補強計画」を令和7年6月に策定しました。

その他、県内の生息地において観察会や生息地の整備などを実施しました。



ミヤコタナゴの未成魚

○令和7年度の実施

令和7年度は、環境省受託事業「希少野生動植物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）」として、飼育施設での系統保存を実施しました。

現地での取組としては、県内で本種の生息が確認されている茂原市、いすみ市、御宿町、

絶滅の危険性を評価

千葉県レッドデータブックの改訂と追録の発行

1 令和7年度の千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会・部会の開催

千葉県では、県内に生息・生育する野生生物の現状を調査・検討し、保護に配慮する必要がある種に関して、千葉県レッドデータブックを平成10～12年に刊行して以降、千葉県レッドデータブック及び千葉県レッドリストの改訂作業を、概ね5～8年間隔で交互に実施しています。

令和7年度は千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会を1回開催し、今後の改訂作業を協議し、追録発行の承認を得ました。また、同検討会内の動物部会を3回開催し、千葉県レッドデータブック及びレッドリスト動物編の改訂に向けて作業しました。

2 動物編の改訂作業

これまで千葉県レッドデータブック及びレッドリスト動物編については、平成22年度にはレッドデータブック、平成17年度と平成30年度にレッドリストを改訂しています。

令和5年度からは、3年間の計画で、通算4回目のレッドデータブック改訂作業を実施します。今回の改訂作業では、平成30年度にレッドリストに掲載された種、もしくは新規掲載する種について、評価を見直します。あわせて、平成22年度に発行した「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編2011年改訂版」の改訂作業を実施します。

令和7年度は動物部会を3回開催し、全体の構成等の検討や、現地調査を行いました。

3 追録第8号の発行

千葉県レッドデータブック追録は、千葉県レッドデータブック、レッドリスト改訂版の発行の合間に発見された保護上重要な生物に関する情報を周知する目的で作成、発行しています。

2026年3月、「千葉県レッドデータブック追録8号」を発行し、シダ類の6種を新しく掲載しました。ニセコクモウクジャク、スギラ

ンは新しく県内から発見され、カテゴリーA（最重要保護）に新規追加となりました。また、近年の分類学的研究の進展により、県内に産することが明らかとなった、ヒメハイホラゴケがカテゴリーA（最重要保護）、ホクリクハイホラゴケ、ミウラハイホラゴケ、イズハイホラゴケがカテゴリーB（重要保護）に、新規追加となりました。



ニセコクモウクジャク（撮影：木村研一氏）



スギラン（撮影：木村研一氏）



ホクリクハイホラゴケ（撮影：荒井智貴氏）

絶滅の危険性を評価

千葉県レッドデータブックの改訂と追録の発行

○千葉県の保護上重要な野生生物 分類群・カテゴリー別掲載種数（令和8年3月現在）

[動物]

分類群	カテゴリー	消息不明・絶滅生物 (X)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	総計	(参考) 情報不足
脊椎動物	哺乳類	3		4	4	6	17	2
	鳥類	20	46	38	33	19	156	
	両生類・爬虫類		6	7	4	6	23	1
	魚類	2	5	9	8	5	29	
	脊椎動物 小計	25	57	58	49	36	225	3
無脊椎動物 (昆虫類)	カゲロウ目		2			3	5	
	トンボ目	7	19	13	6	9	54	
	カワゲラ目		1			1	2	
	ゴキブリ目					1	1	
	カマキリ目				1	1	2	1
	バッタ目	1	7	4	3	5	20	4
	ナナフシ目					1	1	
	カメムシ目	1	10	5	13	6	35	
	アミメカゲロウ目			1	1		2	
	コウチュウ目	3	50	48	42	15	158	
	ハチ目		6	8	18		32	
	シリアゲムシ目			1	3	1	5	
	ハエ目	6	5	10	4	4	29	
	トビケラ目	1	2	2	5	4	14	
	チョウ目(チョウ類)	5	4	9	16		34	
	チョウ目(ガ類)	2	1	4	7	2	16	3
	無脊椎動物 (昆虫類) 小計	26	107	105	119	53	410	8
無脊椎動物 (昆虫類以外)	クモ類		3	3	2	2	10	
	甲殻類		14	3	7	12	36	1
	多足類	3	14	12	7	1	37	
	貝類	17	90	57	28	14	206	
	無脊椎動物 (昆虫類以外) 小計	20	121	75	44	29	289	1
合計		71	285	238	212	118	924	12

[植物・菌類]

分類群	カテゴリー	消息不明・絶滅生物 (X)	野生絶滅生物 (EW)	最重要保護生物 (A)	重要保護生物 (B)	要保護生物 (C)	一般保護生物 (D)	保護参考雑種 (RH)	総計
植物	シダ植物	7	0	46	31	34	10	17	145
	種子植物	53	4	179	237	135	148	13	769
	蕨類	14	1	20	30	6	11	0	82
	藻類	10	3	21	8	2	0	0	44
植物 小計		84	8	266	306	177	169	30	1,040
菌類	地衣類	8	0	25	16	11	20	0	80
	大型菌類	0	0	2	9	15	14	0	40
菌類 小計		8	0	27	25	26	34	0	120
合計		92	8	293	331	203	203	30	1,160

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種特別対策事業

県内で急増し、在来の生態系や農作物等へ被害をもたらす外来生物に対応するため、「外来種特別対策事業」としてカミツキガメの防除を行いました。また、ナガエツルノゲイトウについては、スマートフォンアプリを利用した県民参加型の分布調査を実施し、結果を公開しました。さらに、ヒアリに対する県の取り組みもご紹介いたします。

今後も引き続き、環境省や地元市町村、県民の皆さまと連携の上、対策に取り組む必要があります。

1 カミツキガメの防除

本種は「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律」により、特定外来生物に指定されています。県では平成19年度に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」を策定し、国の確認を受けて、計画的な防除を実施しています。

令和7年度は、令和7年3月に改定した防除実施計画に基づき、5月14日から9月15日にかけて、これまで継続してきた高崎川、鹿島川、西印旛沼等やその周辺の農業水路等において、誘引餌を用いたワナによる捕獲を実施しました。

また、鹿島川周辺や高崎川周辺等の農業水路において、主に活動開始初期の4月下旬から6月上旬と、越冬期前の9月下旬から10月下旬にかけて、ワナで水路を塞ぐことによって、移動する個体を捕獲する「水路封鎖による捕獲」を実施しました。さらに、越冬期（11月から3月）には、泥や横穴に潜っている個体を探して捕獲する、「手探りによる捕獲」を実施しました。

この結果、誘引餌を用いたワナによる捕獲で1,056頭、移動個体の捕獲で242頭、手探りによる捕獲等で72頭の計1,370頭のカミツキガメを捕獲し、継続して防除を実施している場所では、捕獲数に減少の傾向がみられました。一方で、河川上流部や農業水路の一部地域において、新たに生息が確認された場所もみられました。

そのほか、一般市民からの通報により地元市町村や警察が緊急的に収容した個体（カミツキガメ生息実態調査支援事業によって市町

村が捕獲したものを含む）は96頭であり、合計で1,466頭のカミツキガメを防除しました。平成19年度以降の合計捕獲頭数は20,699頭となり、20,000頭を超えました。

来年度は、引き続き集中的な防除を継続し、現在のカミツキガメの分布状況を把握するとともに、根絶に向けた効果的な防除に取り組めます。



図1. カミツキガメの成体



図2. カミツキガメの幼体



図3. 捕獲作業の様子

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種対策特別事業（水生植物）

1 外来水生植物の脅威

千葉県には、人によって持ち込まれた多様な外来の動植物が生息・生育しており、その概要は『千葉県の外来生物リスト 2020 年改訂版』として発行され、生態系または人に対する被害等の影響度がまとめられています。中でもナガエツルノゲイトウ等の一部の水生植物は、河川や農業水路、水田等で爆発的に繁茂し、生物多様性への影響だけでなく、水路の通水障害、農業への被害等の深刻な問題を引き起こしています。

2 スマートフォンアプリを利用した県民参加型分布調査

ナガエツルノゲイトウ等は、非常に繁殖力が強く、発見し次第、できるだけ早く、防除することが重要であり、そのためには正確な分布状況を把握する必要があります。そこで、センターでは特に被害の大きいナガエツルノゲイトウについて、令和5～6年度に県内全域を対象に分布調査を実施し、県内分布図を令和7年2月に公開しました。

効率的な防除を進めるためには、より多くの目で監視し、分布情報を常に更新していく必要があります。そこで、多くの分布情報を収集するため、スマートフォンアプリを使用した県民参加型の分布調査を実施し、多くの方々にも分布調査への御協力をお願いすることとし、その結果を既存の分布図とあわせて公開することにしました。

今回の調査では、株式会社バイオームが開発し運営する、スマートフォンのいきものコレクションアプリ「バイオーム (Biome)」を使用しました。「バイオーム」は、見つけた動物・植物の名前をAIを使って判定することができる無料アプリです。アプリ経由で動物・植物の写真を投稿すると、写真に付属する撮影年月日や位置情報もあわせて記録される仕組みになっています。

調査は、以下のように実施しました。

・タイトル：みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ

・調査期間：令和7年7月1日（火）
～令和7年11月14日（金）

・調査対象種：ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、オオバナミズキンバイ、ボタンウキクサ、ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサ、オオカワヂシャ。

（全7種。全て特定外来生物。）

・調査のテーマ（ミッション）：

①メインミッション：調査対象の7種のうち3種を投稿。

②エクストラミッション1：ナガエツルノゲイトウについて、令和6年度分布調査で確認されたエリアで3回投稿。

③エクストラミッション2：ナガエツルノゲイトウについて、令和6年度分布調査で確認されなかったエリアで1回投稿。

本事業の広報のため、ちば県民だより7月号4面、ちばテレビ「ウィークリーちば 菜の花便」、県エックス投稿にて、投稿を呼び掛けました。また、ちらし（図1）・ポスターを市町村や関係機関に配付、ちらし pdf の小中学校向け配信等の周知活動を実施しました。また、7月24日には、市町村や関係機関を対象に「スマートフォンアプリを使用した県民参加型のナガエツルノゲイトウ等外来水生植物分布調査等に係る説明会」を開催し、本事業の概要や、関係課より補助事業等を説明しました。

その結果、皆様から 209 件の投稿をいただきました。（注：誤りや重複投稿の除去するデータクレンジングをした件数。なお、調査期間内の投稿件数は 209 件、調査期間内に撮影された写真が調査期間終了後に投稿された場合も含めて集計し、データクレンジングしないままの件数は 218 件。）投稿数の種別内訳は表のとおりでした。

今回の調査により、過去に分布が確認されていましたが、令和6年度の分布調査では確認されなかった市川市、松戸市、流山市にて分布が再確認されました。また、これまでに分布が確認されていない安房地域、夷隅地域からの投稿はありませんでした。これらの投稿地点を示した最新の分布図（図2）は、市町村や関係機関とも共有し、計画的・効果的な防除に活用するほか、普及啓発資料としても活用する予定です。

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種対策特別事業（水生植物）

3 関係機関と連携した対策

ナガエツルノゲイトウ等外来の水生植物への対策をより効果的に実施するため、関係者相互の情報共有を図ることを目的に「ナガエツルノゲイトウ等対策庁内連絡会議」を設置し、生物多様性センターが事務局を務めています。令和7年度は、9部署からなる構成機関（環境生活部 水質保全課・自然保護課（事務局）・循環型社会推進課、農林水産部 担い手支援課・農地・農村振興課・安全農業推進課・耕地課、県土整備部・河川環境課、専門的知見を有する者・中央博物館 林 紀男）により2回の連絡会議を実施し、各課で実施している事業の情報等を共有しました。

表 投稿件数の種別内訳

種名	件数
ナガエツルノゲイトウ	147
オオバナミズキンバイ	24
オオフサモ	24
ミズヒマワリ	4
オオカワヂシャ	3
ボタンウキクサ	0
ブラジルチドメグサ	0
計	202



図1 「みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ」
ちらし（表面）

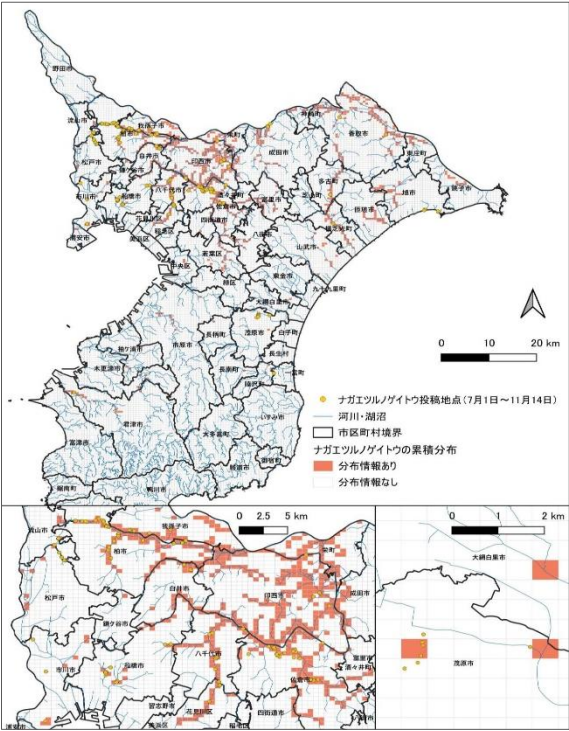


図2 ナガエツルノゲイトウの投稿地点を示した分布図
令和6年度までの分布図（累積地点、500メートルメッシュ）
を赤く示し、今回の調査による投稿地点を黄丸で示した。
※すでに除去等された箇所を含む。

いきものコレクションアプリ
Biome（バイーム）



外来生物の脅威から生態系を守る

外来種特別対策事業（ヒアリ）

ヒアリ

ヒアリは南米原産のアリで、攻撃性が強いことが特徴です。刺されると火を当てられたように痛むことが名前の由来となっています。世界各地に侵入し問題を起こしていることから、特定外来生物に指定され侵入を警戒していましたが、平成29年6月9日に兵庫県尼崎市で発見されたことを皮切りに20都道府県171事例の発見があり（令和8年3月31日現在）、話題になりました。令和7年度は千葉県において、ヒアリの発見が1例ありました。

こちらは令和7年6月5日に柏市内の民間事業者敷地内に運びこまれたコンテナからアリが発見されたものです。事業者がコンテナを開封したところ多数のアリと卵・幼虫又はサナギが確認されました。コンテナ内及びコンテナ外にこぼれ落ちた個体は事業者により直ちに殺虫処理され、当該コンテナは封鎖されました。令和7年6月6日に環境省、柏市と連携し敷地内の確認調査を行い、殺虫餌（ベイト剤）による防除作業を行いました。

日本では、まだヒアリの定着は確認されていません。しかし、確認事例は平成29年度から継続的に続いており、引き続きその侵入には注意が必要です。現在は港湾課、衛生指導課と連携して侵入に備えた水際対策を千葉港で行っています。また、生物多様性センターでは、ヒアリの簡易同定体制を整え、侵入時に迅速な対応がとれるよう備えています。

県民の皆さまにおかれましては、見慣れないアリを発見した場合は地元市町村にお問い合わせください。ヒアリは特定外来生物に指定されているため、外来生物法の規定により生きたままの移動は禁止されています。生きたまま同定することは困難であり、危険を伴うことから、殺虫剤等で殺した上で特徴を確認してください。



ヒアリの特徴

- ・体は赤茶色。
- ・体長 2.5～6 mm の異なるサイズが混在する。
- ・胸部と腹部の間に腹柄節と呼ばれるコブ状の節が 2 つある。
- ・胸の背中側に鋭いトゲがない。
- ・触角を作る節の数が 10 個であり、先端の 2 つが棍棒状に大きくなる。

生物多様性情報の収集・管理・提供

生物多様性地理情報システムの管理運用

1 事業の概要

生物多様性の保全・再生及び持続的な利用の推進にあたっては、基礎情報としての生物分布情報の整備が欠かせません。しかし、このような生物分布情報は、論文や報告書などの紙媒体で記録されているものが多く、情報の検索には大変な手間がかかります。また、県内の各事業によって作成されたデータベースもいくつか存在しますが、そのデータは各部署で個別に管理されており、閲覧には様々な手続きが必要です。

このような状況を解決するため、生物多様性センターでは平成 18 年度から県内の生物分布情報を収集・電子化し、データベースとして一元管理する「千葉県生物多様性地理情報システム」(GIS) の構築を進めています。

2 システムの目的

本システムは、県内の生物多様性に関する情報を統合的に管理することを目的としています。本システムを活用することにより、県内における生物分布情報と、土地利用や今後の開発計画、保護指定などの状況を関連させ、今後どのような施策を行っていくかを判断するための情報提供が可能になります。

3 システム構築の概要

千葉県生物多様性地理情報システム(GIS)は、平成18年度に基本設計を終え、生物分布情報を、基本的には3次メッシュ(1:25,000地図を100等分した範囲、約1km²)をベースとして管理しています。システム構築にはESRI社のGISソフトウェアであるArcGISを用い、独自の機能を追加して運用しています。

4 データベースの内容

本システムの基となるデータベースは、県立中央博物館の生物標本データ、自然保護課発行の報告書、各種論文、環境影響評価書等から抽出されたデータに加え、生命のにぎわ

い調査団員による生物報告もあわせて、約132万件の生物分布情報等で構成されています。

5 システムの活用

本システムを用いて、県内のさまざまな生物の分布図作成や解析が行われています。例として、「生命のにぎわい調査団」の報告に基づく生物分布図の作成や、カミツキガメの生息域把握に活かされています。また、太陽光パネル設置などの開発計画がある地域における希少種の出現記録確認等、外部からの生物分布情報の照会にも随時対応することで、本システムは社会的にも活用されています。

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の普及啓発と推進にあたり、多様な主体により生物多様性の状況をモニタリングする取組が重要なことから、広く県民に呼びかけて、生態系の指標となる生物や外来生物等の身近な生きものの情報提供を受ける事業を行っています。

2 目的

「生命（いのち）のにぎわい調査団」は、野生生物の発見情報を広く一般市民からなる「団員」から報告してもらう調査モニター制度です。県内における生息状況や季節報告（飛来・初鳴き、産卵、植物の開花等）を把握することにより、里山等の身近な生物の分布や経年変化、外来生物の分布拡大、地球温暖化による生物への影響など、生物多様性の変化を把握する仕組みとして、平成 20 年 7 月に開始しました。

3 調査団員の状況

県内全域の多くの人に参加してもらえるように、県内の環境フェア等でも広く調査団員の募集を行い、団員数は現在 1,931 名（令和 8 年 3 月末現在）です。

団員の年齢別構成の特徴は、50 歳代以上が全体の約 6 割を占めています。また、18 歳未満は約 1 割、その親世代にあたる 30 歳代と 40 歳代が約 2 割おり、生命のにぎわい調査を次の世代へつなぐための重要な役割を担っています。

4 調査の対象生物

里山、海辺等千葉県が多様な環境で見られる生物のうち、種類の区別がつきやすく、身近に生息・生育している動植物 57 種を選定し、調査対象生物としています。生息・生育を確認した生物の情報は、当調査団ウェブサイトの報告フォームによる送信、または報告用

紙の郵送・FAX 送付により、提供を受けています。

なお、調査対象生物以外の発見報告も受けています。これまでの報告では、鳥類でいえば里山の生態系を象徴するサシバや希少種のオオタカ、サンカノゴイ、タマシギ等がありました。

5 令和 7 年度の取組

（１）生物報告の件数

生命のにぎわい調査団における生物報告の件数は、令和 7 年度は 3,253 件であり、調査団発足から令和 7 年度末までの 17 年 8 ヶ月間の累計件数は、155,535 件となりました。

（２）生物報告の分析と情報発信

寄せられた生物報告の分析結果は、発見マップとしての「生きもの分布図」、開花・紅葉・初鳴き・産卵などの「生きもの季節マップ」などとして取りまとめています。

さらに、「生命^{いのち}のにぎわい調査団」ウェブサイトにおいて、情報発信の一環として毎月の生物報告や生きもの分布図、調査対象生物の生態や見分け方、生物多様性に関わる企画等の情報提供を随時行っています。

<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

その他、団員向けの通信、「生命^{いのち}のにぎわい通信」を年 4 回発行しました(74 号～77 号)。各号のタイトルは、「身近な鳥、スズメ」「雨上がりのカタツムリ探し」「秋を奏でる虫の音」「たくさんの生き物を守り育てる、干潟」です。さらに古典文学と里山の生き物たちの関わりを分かりやすく記しました。

このにぎわい通信は、調査団員に配布するほか、生物多様性に関連する研修会や講習会の参加者へも配布しました。

生命（いのち）のにぎわい調査団

（３）調査団の研修会等

調査団では、団員の観察技術の向上のために、千葉県自然や調査対象生物の見つけ方・見分け方を学んで生物報告の正確性を向上させるための現地研修会を実施しています。また、これまでの調査結果の検討などを行う「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しています。

①令和７年度の現地研修会

（ア）第１回現地研修会

令和７年５月３１日（土）梅ヶ瀬溪谷（市原市）

３０名の参加申込がありましたが、雨天のため中止。

（イ）第２回現地研修会

令和７年１２月６日（土）三番瀬干潟（船橋市） 参加者数：２６名

「初冬の三番瀬で冬鳥と干潟の生きものを行いました。当日は穏やかな晴天に恵まれ、２６名の団員にご参加いただきました。研修会

ではセンター職員による鳥類の見分け方や生態の解説後に双眼鏡等を用いて鳥類の観察を行いました。干潟に飛来するミヤコドリ、ダイゼン、シロチドリなどを確認することができました。干潟に暮らす生き物の観察方法を講師であるふなばし三番瀬環境学習館の宮腰氏に教わりました。スコップで干潟を掘ったところ、ニホンスナモグリを確認することができました。また、浅瀬をタモ網で引きずってみると甲殻類や魚類を採集することができ、短時間ながら魚類はエドハゼ、チクゼンハゼ、マサゴハゼ、ヒメハゼ、アシシロハゼの５種を確認することができました。

東京湾の干潟は戦後の高度経済成長期に多くが埋め立てられましたが、三番瀬は現在でも干潟・浅海域が残されている貴重な場所です。研修会では干潟に暮らす生き物やこれらを餌とする鳥類など様々な生き物を確認することができました。



第２回現地研修会 三番瀬観察

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団

②生命のにぎわい調査フォーラム

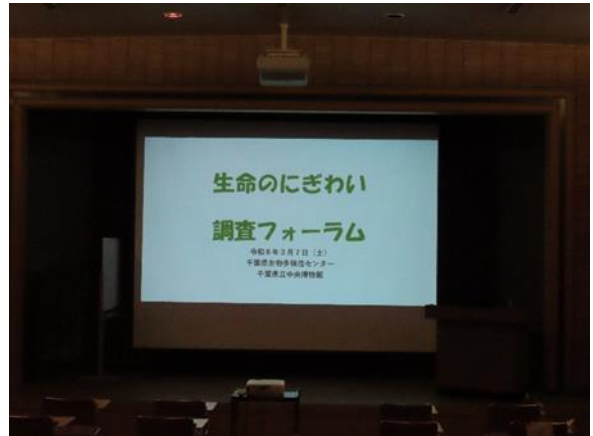
下記内容で生命（いのち）のにぎわい調査フォーラムを実施しました。

令和8年3月7日（土）千葉県立中央博物館
講堂 参加者数：34名

[内容]

- ・千葉県の外来の昆虫類などについて（佐藤 哲也）
- ・生き物の名前は、どうして変わるのか？（下 稲葉 さやか）
- ・生き物報告の方法と今年度の報告まとめ（松坂 麻美）
- ・団員4名からの「観察事例の紹介」
- ・写真コンテストと表彰式

応募 35 作品からフォーラム参加者の投票審査による上位2点を最優秀賞・優秀賞として選出し（本年報の表紙及び裏表紙に掲載）、その他、生物多様性センター賞、詩人・大島健夫が選ぶ大島賞を表彰しました。



生命のにぎわい調査フォーラム



写真コンテストの会場

イベントによる情報発信

生物多様性に関する普及啓発事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性」をより社会に浸透させることを目的に、県内の市町村や企業と協働して、生物多様性に関する巡回展示や巡回講座などの普及啓発活動を行っています。

2 巡回展示

令和7年度は、「ふなばし環境フェア」や「エコメッセ2025inちば」等の市町村等が開催する10の環境関連イベントに出展し、生物多様性に関連する普及啓発活動を実施しました（展示一覧は29頁参照）。展示ブースでは、設置したパネルの解説や刊行物の配布を行うとともに、内容の理解を深める「生命（いのち）のにぎわいクイズ」を実施し、カワセミやキンランなど58種類の千葉県生き物と、アメリカザリガニなど14種類の外来生物と特定外来生物の缶バッジを制作し、クイズ参加の記念品として配布しました。

3 巡回講座

外来種や希少種など、生物多様性をテーマに、市町村や市民団体等からの要望による講演、講習会を行いました（講座一覧は28頁参照）。



県民の日中央行事へのブース出展の様子

ウェブサイトによる情報発信

生物多様性に関する普及啓発事業

概要

生物多様性センターのウェブサイトは、当センターの取組を多くの方に伝えることを目的に、平成20年5月に開設しました。

記事の追加・更新・修正などを月に2～3回程度のペースで行い、外部に向けて情報発信を続けています。アクセス数は月3万件以上に上り、特にレッドデータブックやニュースレターなど、当センターの出版物を無料でダウンロードできるページが多く閲覧されて

います。

令和3年度には、千葉県生物多様性センターのウェブサイトをリニューアルしています。さらに令和4年度は、調査団専用ページに写真コンテストに応募された作品を公開する写真集ページを設けました。令和6年度も引き続き、調査団員から寄せられた生き物報告の取りまとめ結果、発行した刊行物や環境イベント出展のお知らせ等を掲載しました。



リニューアルされた千葉県生物多様性センターのウェブページ（ホーム画面）

URL <https://www.bdcchiba.jp/>

刊行物の発行

生物多様性に関する普及啓発事業

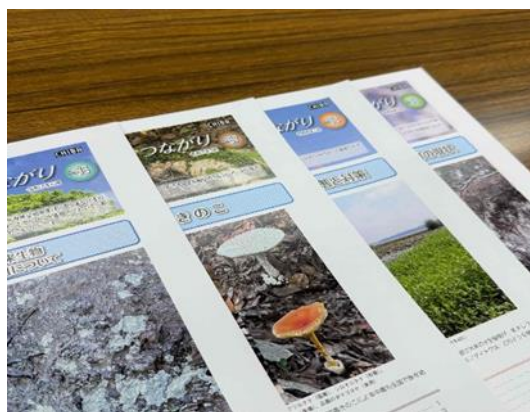
生物多様性センターでは、生物多様性に関する各種刊行物を発行し、関係各所に配布するほか、生物多様性に関連するイベントにおいても配布しています。また、ウェブサイト上からどなたでもご覧いただけます。

ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」

生物多様性についての理解の促進や、生物多様性ちば県戦略の普及啓発、生物多様性センターの取組に関する情報発信などを行うため、ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」を年4回発行しました。

巻頭の生物多様性に関する特集や、生物多様性の保全に向けた取組の紹介、千葉県に

生育・生息している希少種や外来種の紹介、生物多様性センターからのお知らせなどを内容としています。



ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」 No. 86-89

令和7年度発行 ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」	
発行日等	主な内容
No. 86 (6月30日)	・県内初確認の特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について ・生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました ・みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ ・カミツキガメ防除実施計画を改定しました ・千葉県の希少種（アカハライモリ）
No. 87 (9月30日)	・千葉県の毒きのこ ・ナルトサワギクの防除活動 これまでとこれから ・千葉県ミヤコタナゴ再導入・補強計画を策定しました ・「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞～安房生物愛好会～ ・千葉県の外来種（チュウゴクアミガサハゴロモ）
No. 88 (1月15日)	・ナガエツルノゲイトウの生態と対策 ・生物多様性に関する市町村研修会を開催しました ・文化の日千葉県環境功労者表彰 ～公益社団法人 観音崎自然博物館～ ・千葉県の希少種（アブラハヤ）
No. 89 (3月31日)	・絶滅危惧種ヒメコマツ個体群の現状 ・生命のにぎわい現地研修会を開催しました ・房総のヒメコマツ観察会を開催しました ・千葉県の外来種？（イノシシ）

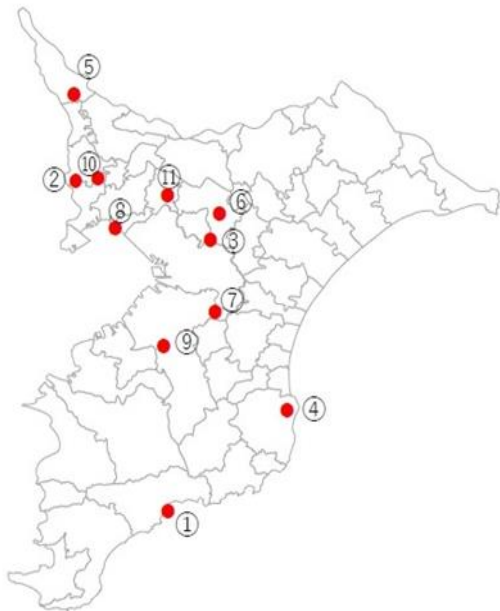
生物多様性サテライトの設置

1 事業の概要

生物多様性センターでは、生物多様性の普及啓発を目的として平成 23 年度から、県内各地に展示スペース「生物多様性サテライト」の設置を行っています。

2 令和 7 年度の状況

15 年目となる令和 7 年度は 11 カ所となりました。生物多様性の重要性についてパネル展示するとともに、ニュースレター『生命のにぎわいとつながり』や「生命のにぎわい調査団」入団申込書等を配布しました。



生物多様性サテライト事業

- ① 鴨川シーワールド（鴨川市）
- ② 東京大学柏キャンパス（柏市）
- ③ 東京情報大学（千葉市）
- ④ 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター（いすみ市）
- ⑤ キッコーマン(株)もの知りしょうゆ館（野田市）
- ⑥ (株)フジクラ佐倉事業所（佐倉市）
- ⑦ 日清紡ケミカル(株)土気事業所（千葉市）
- ⑧ ふなばし三番瀬環境学習館（船橋市）
- ⑨ 市原市役所（市原市）
- ⑩ マブチモーター（株）（松戸市）
- ⑪ (株) TOA シブル（八千代市）



鴨川シーワールドのサテライト

大学との連携

大学との連携による生物多様性保全研究事業

1 連携協定の締結

平成 20 年 12 月 24 日に、県内にキャンパスや研究施設がある江戸川大学、千葉大学大学院園芸学研究科、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学の 6 大学と「生物多様性に関する千葉県と大学との連携に関する協定書」を締結しました。

また、県内では、外来生物や野生鳥獣による農作物等への被害が拡大しています。このような有害鳥獣による被害を抑制するためには、鳥獣被害問題の専門家からの助言や工学的な情報及び技術の共有が欠かせません。このため、効果的な防除・捕獲方法、野生生物の生息状況の把握や効率的な捕獲装置の開発など、生物多様性保全に関する幅広い課題に対応するために、平成 28 年 1 月 21 日に千葉科学大学及び千葉工業大学と新たに「自然保護に関する千葉県と大学との連携に関する協定」を締結しました。これら 8 大学との協定における連携項目としては以下 4 つを掲げています。

- ① 情報の共有
- ② モニタリングの実施
- ③ 共同研究
- ④ 人的交流・人材育成

令和 4 年度より新型コロナウイルス感染拡大の影響等を受けて研究成果発表会は中止となっており、令和 6 年度は、今後の実施方針の検討を行いました。

2 人的交流・人材育成

東京農業大学 3 名のインターンシップ実習生を受け入れました。

3 連絡会議

県と各大学の関係者による連絡会議を Zoom にて開催し、令和 8 年度は数年振りとなる「研究成果発表会」の開催を決定しました。

企業との連携

生物多様性に関する企業との連携推進事業

農林水産業から製造業、サービス業まで全ての企業は、直接的または間接的に生物多様性を利用し、企業活動を行っています。そのため、生物多様性の急速な損失は、企業の存続にかかわる問題でもあります。同時に、企業活動は、生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の保全を推進するためには、企業による生物多様性への配慮が不可欠です。

このような理由から国内外において、多くの企業が生物多様性に関心を持ち、生物多様性の保全と持続可能な利用のために、企業独自の行動指針やガイドラインの策定、事業活動の中での取組、社会貢献としての取組等を始めるようになりました。

しかしながら、企業活動と生物多様性の関係は分かりづらく、社会での認知度も低いばかりか、保全の取組には地域ごとの対応が必要なため、企業にとっては、関心はあっても実際の取組にまで結びつけにくいのが現状です。

そのため千葉県では、企業の皆様に、千葉県内の生物多様性に関する情報や、先進的な企業による取組事例等を共有するための「企業と生物多様性セミナー」を、(一社)千葉県環境保全協議会と(一社)千葉県経済協議会との共催で、平成 21 年度から開催しています。

令和 7 年度は下記のとおり開催しました。

日時・場所	令和 7 年度開催の第 28 回企業セミナーの内容
令和 8 年 2 月 19 日 (木) 千葉県立中央博物館講堂 (32 名参加)	テーマ：企業活動と外来生物 講 演：「県内の外来生物について」 千葉県生物多様性センター 佐藤 哲也 事例報告：「完成形ではない生物多様性の取り組み －『まずやってみる』から始まった私たちの挑戦－」 株式会社 TOA シブル 青砥 望 氏 「NEC 我孫子事業場における生物多様性保全活動」 日本電気株式会社 津田 麻祐子 氏 千葉県からの情報提供：「地域生物多様性増進法について」 千葉県生物多様性センター 鈴木 健太

1 自然系調査研究機関連絡会議

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）は、国や地方自治体（主に都道府県）で自然系（自然環境保全、野生動植物保全の分野等）の調査研究を行っている機関が、相互の情報交換、情報共有を促進し、ネットワークの強化を図り、科学的情報に基づく自然保護施策の推進に寄与することを目的として平成 10 年 11 月に発足しました。事務局は山梨県富士吉田市にある環境省自然環境局生物多様性センターで、千葉県では生物多様性センターと中央博物館が、平成 20 年度から加入しています。

この会議は年 1 回・10～11 月に、研究発表会（1 日；口頭・ポスター）と連絡会議（半日）、施設見学・野外巡検（半日）を組み合わせで開催されており、平成 20 年以来ほぼ毎年、センターと中央博物館の職員が参加しています。

令和 7 年度は、11 月 6 日（木）～7 日（金）に、山梨県富士山科学研究所が開催機関となって、一般財団法人人材開発センター富士研修所を会場に当面での開催となりました。センターからは外来種担当者が「千葉県全域におけるナガエツルノゲイトウの分布と防除への活用」の報告を行いました。

第 28 回 NORNAC 調査研究・活動事例発表会

日時：令和 7 年 11 月 6 日（木）、7 日（金）

場所：一般財団法人人材開発センター富士研修所（山梨県富士吉田市）

発表：千葉県全域におけるナガエツルノゲイトウの分布と防除への活用

演者：千葉県生物多様性センター 桐澤 凜

開発事業の指導

開発事業において生物多様性に配慮した立地選定や土地利用が行われるよう、レッドリスト（レッドデータブック）の定期的な改訂を行っています（レッドデータブックの改訂と追録の発行については9頁参照）。レッドリストは、生物多様性センターのウェブサイトからダウンロードすることができ、事業者を始めとする関係者にも利用していただいています。また、事業者の指導に当たっては、生物多様性地理情報システムを活用しています。

さらに、千葉県自然環境保全条例に基づく自然環境保全協定の締結に当たって、生物学や保全生態学に関する専門的な知見をもとに事業者の指導を行っています。具体的には、事業計画地における自然環境調査の方法、調査結果の取りまとめ及び環境保全措置等について、担当班と協働して指導を行っています。また、自然公園内で開発行為に伴って実施される自然環境調査についても、同様の指導を行っています。

調査項目は、維管束植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類等の種組成や生育・生息状況の把握や、植物群落の組成・構造・分布状況の把握、景観の把握等です。

また、現地調査を実施して、事業者が行った調査結果の確認や環境保全措置の検証等も実施しています。これらの指導は必要案件の発生に合わせて実施しています。



開発指導に係る現地調査の様子

III

令和 7 年度 他機関への 支援活動・研究業績等のまとめ

○職員

令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月における職員（6 名）及び会計年度任用職員（3 名）。（兼）は中央博物館との兼務、（任）は任期付職員。

主 幹 金城芳典

副主査 下稲葉さやか（兼）

副主査 今津健志（任）

技 師 桐澤凜

技 師 佐藤哲也

主 事 鈴木健太

松坂麻美

大島健夫

日置克三

○他機関への支援活動

・講演・講座講師・観察会講師等（24 件）

2025.6.6 生涯大学校「千葉県の絶滅危惧種と外来種—千葉県環境生活部自然保護課の施策について—」（生涯大学校東葛飾学園浅間台教室）講演、下稲葉さやか、48 名

2025.6.9 大多喜西小学校「自然観察会」（大多喜西小学校）観察会事前学習講師、桐澤凜、14 名

2025.6.16 大多喜西小学校「自然観察会」（大多喜西小学校）観察会講師、桐澤凜／佐藤哲也／鈴木健太、14 名

2025.6.16 船橋市「ふなばしエコカレッジ『野生生物について』」（船橋市役所）講演、桐澤凜、20 名

2025.6.22 八街市中央公民館「外来種について」（八街市中央公民館）講演、佐藤哲也、12 名

2025.6.22 香取市環境フォーラム 2025「里山保全と香取地域の生き物」（橘ふれあい公園テラス・サンサン）講演、大島健夫、34 名

2025.6.25 御宿町「令和 7 年度御宿町自然観察会」（御宿町公民館）観察会講師、佐藤哲也／鈴木健太／大島健夫、25 名

2025.7.24 千葉県「ナガエツルノゲイトウ等外来水生植物の分布調査について」（オンライン）講演、下稲葉さやか、54 名

2025.8.27 西白井複合センター「生物多様性を考

えよう」（西白井複合センター）講演、桐澤凜、6 名

2025.8.28 茂原市「令和 7 年度茂原市自然観察会」（茂原市）観察会講師、佐藤哲也／大島健夫／松坂麻美、54 名

2025.9.19 生涯大学校「千葉県の絶滅危惧種と外来種—千葉県環境生活部自然保護課の施策について—」（生涯大学校京葉学園）講演、下稲葉さやか、115 名

2025.10.7 千葉市生涯学習センター「千葉のケモノ いる・いないの話」（千葉市生涯学習センター）講演、下稲葉さやか、50 名

2025.10.18 イオンタウン株式会社「イオンタウン館山・いきもの調査 2025」（イオンタウン館山）観察会講師、大島健夫、31 名

2025.10.29 令和 7 年度生物多様性に関する市町村職員研修会「生物多様性市町村戦略の策定について」（千葉県立中央博物館）講演、桐澤凜、35 名

2025.10.29 令和 7 年度生物多様性に関する市町村職員研修会「県内の特定外来生物（動物）について」（千葉県立中央博物館）講演、佐藤哲也、35 名

2025.10.29 令和 7 年度生物多様性に関する市町村職員研修会「県内の特定外来生物（植物）について」（千葉県立中央博物館）講演、下稲葉さやか、35 名

2025.10.31 千葉県自然公園指導員等研修会「千葉県の絶滅危惧種と外来種」（天津小湊公民館）講演、下稲葉さやか、27 名

2025.10.31 千葉市「千葉市内の特定外来生物について」（千葉市役所）講演、下稲葉さやか、5 名

2025.11.11 イオンタウン株式会社「イオンタウンおゆみ野・いきもの調査 2025」（イオンタウンおゆみ野）観察会講師、大島健夫、15 名

2026.1.8 佐倉市「佐倉市民カレッジ『特定外来生物の生態や現状と課題』」（佐倉市立中央公民館）講演、今津健志、38 名

2026.2.19 第 28 回企業と生物多様性セミナー「県内の外来生物について」（千葉県立中央博物館）

講演. 佐藤哲也. 32 名
 2026.3.7 令和 7 年度生命のにぎわい調査フォーラム「千葉県の外来の昆虫類などについて」(千葉県立中央博物館) 講演. 佐藤哲也. 43 名
 2026.3.7 令和 7 年度生命のにぎわい調査フォーラム「生き物の名前はどのようにして変わるのか」(千葉県立中央博物館) 講演. 下稲葉さやか. 43 名
 2026.3.7 令和 7 年度生命のにぎわい調査フォーラム「生き物報告の方法と今年度のまとめ」(千葉県立中央博物館) 講演. 松坂麻美. 43 名
 2026.3.20 イオンタウン株式会社「イオンタウン館山・イオンの森いきもの調査」(イオンタウン館山) 観察会講師. 大島健夫. 8 名

○情報発信

・展示等による情報発信 (10 件)

2025.6.2~6.7 第 10 回いちばら環境フェスタ(市原市) 於: アリオ市原サンシャインコート
 2025.6.3~6.10 かまがや環境パネル展 2025 (鎌ヶ谷市) 於: 鎌ヶ谷市役所
 205.6.7 いちかわ環境フェア 2025 (市川市) 於: ニッケコルトンプラザ
 2025.6.7 令和 7 年度いんざい環境フェスタ(印西市) 於: イオンモール千葉ニュータウン
 2025.6.14 第 28 回ふなばし環境フェア(船橋市環境フェア実行委員会) 於: ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館
 2025.6.15 ちばみんフェス 2025 in 香取(千葉県) 於: 香取市佐原文化会館
 2025.6.24~6.29 令和 7 年度環境パネル展(船橋市) 於: 船橋市中央図書館
 2025.10.14 第 17 回かまがや環境フェア(鎌ヶ谷市) 於: 鎌ヶ谷市役所
 2025.10.19 エコメッセ 2025 in ちば(エコメッセちば実行委員会) 於: 幕張メッセ国際会議場
 2025.11.3 令和 7 年度自然誌フェスタ(千葉県立中央博物館) 於: 千葉県立中央博物館

・マスコミを通じての情報発信 (32 件)

2025.5.16 千葉テレビ放送. 千葉テレビ放送ニュ

ース(金城芳典/今津健志)

2025.5.16 NHK. NHK 千葉放送局ニュース(金城芳典/今津健志)
 2025.5.16 東京新聞. 東京新聞. カミツキガメ防除事業(金城芳典/今津健志)
 2025.5.16 千葉日報. 千葉日報. カミツキガメ防除事業(金城芳典/今津健志)
 2025.5.16 産経新聞. 産経新聞. カミツキガメ防除事業(金城芳典/今津健志)
 2025.5.16 テレビ朝日. テレビ朝日グッド! モーニング. カミツキガメ防除事業(金城芳典/今津健志)
 2025.6.6 千葉日報. 千葉日報. クビアカツヤカミキリの生息状況について(金城芳典)
 2025.6.12 千葉日報. 千葉日報. 柏市内におけるヒアリの確認について(金城芳典)
 2025.6.12 朝日新聞. 朝日新聞. 柏市内におけるヒアリの確認について(金城芳典)
 2025.6.12 読売新聞. 読売新聞. 柏市内におけるヒアリの確認について(金城芳典)
 2025.6.24 千葉日報. 千葉日報. アカカミアリについて(金城芳典)
 2025.7.4 日経新聞. 日経新聞. ナガエツルノゲイトウの分布図更新について(金城芳典)
 2025.7.8 千葉日報. 千葉日報. アプリを使用したナガエツルノゲイトウ等外来水生植物調査について(金城芳典)
 2025.7.15 千葉テレビ放送. news 千葉. アプリを使用したナガエツルノゲイトウ等外来水生植物調査について(金城芳典)
 2025.8.8 テレビ朝日. スーパーJ チャンネル. 県内におけるナガエツルノゲイトウの分布状況について(金城芳典)
 2025.8.12 日本テレビ. Day.Day. アプリを使用したナガエツルノゲイトウ等外来水生植物調査について(金城芳典)
 2025.8.14 日本農業新聞. 日本農業新聞. アプリを使用したナガエツルノゲイトウ等外来水生植物調査について(金城芳典)
 2025.8.20 産経新聞. 産経新聞. アプリを使用し

たナガエツルノゲイトウ等外来水生植物調査について（金城芳典）

2025.8.21 産経新聞. 産経新聞. ナガエツルノゲイトウについて（金城芳典）

2025.8.21 読売新聞. 読売新聞. ナガエツルノゲイトウの生息状況等について（金城芳典）

2025.8.27 TBS. Nスタ. ナガエツルノゲイトウの生息状況等について（金城芳典）

2025.8.28 NHK. ひめ DON!. ナガエツルノゲイトウの生息状況等について（金城芳典）

2025.9.12 読売新聞. 読売新聞. スマートフォンアプリを使用した外来水生植物の分布調査について（金城芳典）

2025.9.12 読売新聞. 読売新聞. スマートフォンアプリを使用した外来水生植物の分布調査について（金城芳典）

2025.9.12 千葉テレビ放送. 千葉テレビ放送ニュース. スマートフォンアプリを使用した外来水生植物の分布調査について（金城芳典）

2025.10.8 千葉日報. 千葉日報. 都川のエイについてについて（金城芳典）

2025.10.9 朝日新聞. 朝日新聞. 都川のエイについてについて（金城芳典）

2025.11.5 読売新聞松山支局. 読売新聞. ヒメコマツサポーター制度について（金城芳典）

2025.12.3 千葉日報. 千葉日報. 生物多様性ちば県戦略の改訂について（金城芳典）

2025.12.10 千葉日報. 千葉日報. レッドデータブックの種数について（金城芳典）

2025.12.19 千葉日報. 千葉日報. ナガエツルノゲイトウについて（金城芳典）

2026.3.3 株式会社シオン. 突破ファイル. ナガエツルノゲイトウの分布について（金城芳典）

○研究業績等

・金城芳典

作成依頼等

金城芳典. 2025. 一般社団法人日本環境アセスメント協会「外来種対策における広域連携事例紹介」（イオンタウン館山）取材協力・資料提供

委員等

船橋市環境審議会委員

・下稲葉さやか

教育普及書

下稲葉さやか. 2025. ナルトサワギクの防除活動これまでとこれから（生物多様性ちばニュースレター）87:3. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2025. 「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞 ～安房生物愛好会～（生物多様性ちばニュースレター）87:4. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2026. ナガエツルノゲイトウの生態と対策（生物多様性ちばニュースレター）88:1-3. 千葉県自然保護課

下稲葉さやか. 2026. 千葉県の外来種？ イノシシ（生物多様性ちばニュースレター）89:4. 千葉県自然保護課

・桐澤凜

教育普及書

桐澤凜. 2025. みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ（生物多様性ちばニュースレター）86:3-4. 千葉県自然保護課.

桐澤凜. 2026. 生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました（生物多様性ちばニュースレター）88:3-4. 千葉県自然保護課.

桐澤凜. 2026. 房総のヒメコマツ観察会を開催しました（生物多様性ちばニュースレター）89:3-4. 千葉県自然保護課.

研究発表

桐澤凜. 2025. 千葉県全域におけるナガエツルノゲイトウの分布と防除への活用. 令和 7 年度 自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC28）. 一般財団法人人材開発センター富士研修所（山梨県富士吉田市）

・佐藤哲也

学術論文・学術書

佐藤哲也・五明明男. 2026. 上総湊砂浜海岸砕波帯

におけるアユ *Plecoglossus altivelis altivelis* の仔稚魚の生息状況について、千葉県立中央博物館研究報告 18 (1) : 1-5. 千葉県自然保護課.

教育普及書

佐藤哲也. 2025. 県内初確認の特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について (生物多様性ちばニュースレター) 86:1-2. 千葉県自然保護課.

佐藤哲也. 2025. 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 86:3. 千葉県自然保護課.

佐藤哲也. 2025. 千葉県ミヤコタナゴ再導入・補強計画を策定しました (生物多様性ちばニュースレター) 87:3-4. 千葉県自然保護課

佐藤哲也. 2026 . 文化の日千葉県功労者表彰 ～公益社団法人観音崎自然博物館～ (生物多様性ちばニュースレター) 88:4. 千葉県自然保護課

佐藤哲也. 2026 . 千葉県の希少種 アブラハヤ (生物多様性ちばニュースレター) 88:4. 千葉県自然保護課

佐藤哲也. 2026 . 生命のにぎわい調査団現地研修会を開催しました (生物多様性ちばニュースレター) 89:4. 千葉県自然保護課

委員等

令和7年度茂原市ミヤコタナゴ保護協議会 助言者
令和7年度茂原市鶴枝ヒメハルゼミ発生地保護協議会 助言者

令和7年度ミヤコタナゴ保護増殖事業検討会 関係機関

令和7年度関東地方外来種対策連絡会議

7 都県外来カミキリムシ調整会議

・今津健志

学術論文・学術書

加賀山翔一・今津健志. 2025. 印旛沼流域の水田地帯に定着した特定外来生物 カミツキガメの成長パターン. 千葉県生物多様性センター研究報告 12:1-10

今津健志. 2026. 千葉県におけるカミツキガメの防除について (ペストコントロール) 213:30-33

社団法人日本ペストコントロール協会.

今津健志. 2025. カミツキガメ防除実施計画を改定しました (生物多様性ちばニュースレター) 86:4. 千葉県自然保護課.

・大島健夫

学術報告書

尾崎煙雄・大島健夫・斉藤修. 2025. コブドウトリバの観察と記録. 房総の昆虫 76:67-68

斉藤明子・大島健夫. 2026. スジグロボタルの追加記録その 2. 房総の昆虫 77:71

教育普及書

大島健夫. 2025. 千葉県の希少種 アカハライモリ (生物多様性ちばニュースレター) 86:4. 千葉県自然保護課.



上：生物多様性センター賞受賞作品

下：大島健夫賞受賞作品

千葉県生物多様性センター 年報 18

令和 8 年 6 月発行

発 行 千葉県環境生活部自然保護課

編 集 千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 (県立中央博物館内)

電話：043-265-3601

ファクシミリ：043-265-3615

URL <https://www.bdcchiba.jp>

